

特別講演 2

「医療の危険学」

昭和大学医学部 胸部心臓血管外科 主任教授
手取屋 岳夫 先生

医師になり約 20 年、心臓外科医として毎日手術に明け暮れる日々を過ごしているうちに、医療を取り巻く環境は大きく変貌し、医療に対する社会の捉え方、ニーズ、期待感も変化して参りました。そのような中、私たちは 2007 年に畑村洋太郎先生の発案で始まった“危険学プロジェクト”において、「医療における危険学についての研究」を担当して参りました。様々な業種の方々との知の交流、情報共有をしつつ、より高い次元で徹底した現場主義、すなわち現地・現物・現人主義に基づいて、医療現場の検証を試みています。この 4 月には、更にこれらを知識として共有化・普及啓蒙することを目的として、産業技術総合研究所に「現地・現物・現人主義に基づく医療サービスコンソーシアム」を設立しました。

講演では、医療人として自立と自律を実践する為に、私たちの心臓外科チームとその仲間達が取り組んでいることをご紹介させていただきます。